

【総評】

受験生の皆さん本当にお疲れ様でした。自分の持っている力を十分に発揮できたでしょうか。思うように得点がおのびなかった人、意外と得点できた人、普段なら解ける問題をミスしてしまった人など、いろいろな人がいることでしょう。教科の得意・不得意などにより達成感も人それぞれと思いますが、まずは全力を尽くした皆さんに拍手を送りたいと思います。高校入試は、中学生の皆さんにとって人生の節目であることに間違いありませんが、最も重要なのは、この経験を今後の長い人生の中でどのように活かしていくかということです。今回の経験が皆さんを強くし、今後の人生の糧となることを祈っています。また、保護者の方々も、受験したお子さん同様に（もしくはそれ以上に）不安を抱きながら過ごされていたことと思います。本当にお疲れ様でした。

以下、今年の入試について簡単にコメントいたします。

【難易度】

教科別に見ると、国語と理科が昨年に比べてやや易しく、社会がやや難しくなりました。5教科の合計としては、昨年に比べてやや易しいのではないかと思います。教科によって易・難の差が比較的大きい出題となりました。

【出題形式・内容】

形式的には昨年から大きな変更はなく、落ち着いて取り組むことができたものと思います。どの教科も文章や資料の読み取りを重視する傾向が年々強くなっており、読解力・表現力重視の傾向は今後も続きそうです。

【国語】

- 難易度…第四問がやや難しかったものの、大半が平易な問題でした。平均点は、昨年より高くなり、65点前後だと予想されます（昨年は59.0点）。
- 構成…大問構成や総問題数、配点は変化がありませんでした。
- 第一問（漢字・文法・行書）…問二は、文の中にある用言の数を答える問題で、新しい形式の出題でした。問三は、行書の特徴について問われました。行書に関する問題については、昨年、一昨年も出題されており、3年連続での出題となりました。
- 第二問（実用的文章）…実用的文章は、昨年度同様、「話すこと」「聞くこと」の単元を意識した出題で、話し合いの流れをもとに、「発言の意図」を正確に把握する必要がありました。
- 第三問（文学的文章）…読みやすい文章で、四択問題（問一・問二・問六）も選択肢を絞りやすかったため、易しい出題だったと考えます。主題となる記述問題（問五）は、例年と同様の難易度だと思います。
- 第四問（説明的文章）…素材文の字数は減少しましたが、文章の内容はややとらえづらかったと思います。平易な問題が多かったですが、主題となる記述問題（問四）については、文章の後半部分の内容を正確にとらえていなければ解けない問題で、やや難しかったと考えます。
- 第五問（古文）…注釈が多くついていたため、内容は読み取りやすかったと思います。問題についても平易なものが多く、易しい出題となりました。
- 第六問（作文）…三人の会話を踏まえて、「言葉の変化について」書きなさいという問題で、やや自由度のあるテーマであり、具体例を挙げることも難しかったため、どのように書けばよいか悩んだ人が少なくなかったのではないのでしょうか。国語辞典が時代を反映している点に着目すると、自分の考えが書きやすかったと思われる。

【数学】

- 難易度…昨年と同程度か、やや易しめの出題になりました。読解力が試される問題もありましたが、問題全体での難易度および単元のバランスが取れており、適切に時間配分ができていれば高い得点率が望めそうです。平均点は昨年よりやや上がり、50点前後と予想します。
- 構成・形式…昨年から構成の大きな変化は見られませんでした。例年以上に図表や文章の読み取りが多く、何を答えるべきか即座に読み取るための読解力、が求められました。
- 第一問…小問集合。各単元の基礎・基本を重視した出題でした。7は45度の角を作図する方法についての問題で、これまでの入試ではあまり見られなかった形式です。
- 第二問…小問集合。極端に難易度の高い問題はないものの、全体的に思考力が試される出題でした。1はプログラミング的思考を意識した問題。見慣れない形式に戸惑うかもしれませんが、方程式の立式ができればスムーズに解答できました。4は確率の出題。苦手とする人も多い分野で、起こりうるパターンを整理し、漏れなく数える必要がありました。
- 第三問…文字式・方程式と関数からの出題。例年同様、大量の図や文章を読み解く力、グラフに整理して考える表現力が求められました。前問の内容が次の問題の誘導やきっかけになっている場合が多く、問題の流れに沿って解答できれば高い得点率が望めたのではないのでしょうか。
- 第四問…平面図形からの出題。大問として円が出題されるのは3年ぶりです。最終問は例年同様、多角的な見方や気づきが求められる問題で、難易度も高く設定されていました。大問全体の流れや構成は素直で、概ね解きやすいものでした。

【社会】

- 難易度…歴史の記号問題の選択肢が難しくなり、全体として昨年より難度が上がりました。平均点は昨年(59.6点)より下がり50～55点前後と予想します。
- 構成・形式…昨年同様、大問数は6題、全体の小問数は30問でした。配点は大問1のみ15点で、ほかの大問はすべて17点でした。また、大問2～大問6の最後の問題は、例年通り複数の資料を利用した記述問題となっており、資料を読み取り、文章にまとめる力が求められます。
- 第一問(歴史・公民)…人権保障のあゆみをテーマとして、歴史分野・公民分野から基本～標準的な内容が出題されました。また、今年は第一問でも年代並べかえ問題が出題されました。
- 第二問(地理)…中国・四国地方に関する出題でした。1、3(1)は基本的な内容ですので、確実に得点したいところです。
- 第三問(歴史)…日本における外来文化の受容に関する出題でした。1の年代並べかえ問題は、苦手とする人が多いですが、時代を判別するポイントとなる部分に着目するとそれほど苦勞することなく並べ替えることができます。
- 第四問(公民)…行政の役割と新たな取り組みに関する出題でした。1～3は基本的な問題が多く解きやすかったのではないのでしょうか。4の記述問題は、各資料から読み取れることをふまえて、利点としてうまくまとめることができたかどうかポイントになりました。
- 第五問(地理)…アフリカ州に関する出題でした。4(1)の資料読み取り問題は今年も計算が必要な選択肢が含まれていました。4(2)の記述問題は資料を読み取った上で問われたことを適切に表現する力が求められます。
- 第六問(歴史・公民)…環境問題に関する歴史と公民の融合問題でした。歴史の問題は社会のようす、経済のようすといった生徒が苦手とする内容で、選択肢の判別が難しく、昨年より難度が上がりました。

【英語】

- 難易度…第一問のリスニング問題や第二問の小問集合はそれほど難しくはないものの、第三問や第四問の英問英答の問題では、代名詞や時制の表記に注意する必要がありました。第五問の英作文は題材が難しく、解答に迷った方も多いのではないのでしょうか。平均点は48～53点と予想します。
- 構成…昨年と同じ構成で、大問数は5題、全体の小問数は30問でした。配点も昨年と同様でした。
- 第一問（リスニング）…例年同様の出題形式でした。問題4のテーマは「帰国前にホストファミリーに何ができるか」でした。質問自体は難しくないので、内容を考えて答える必要がありました。
- 第二問（小問集合）…例年同様の出題形式でした。全体的に取り組みやすい問題が多く、確実に得点したいところでした。
- 第三問（長文読解）…例年同様の出題形式でした。全体的にわかりやすい英単語と英文が使われていましたが、なかには難しい英文も含まれました。3は模範解答とは別の形で答えた方もいると予想します。中間点が割れたけもらえたかで差がつきそうな印象です。
- 第四問（長文読解）…登場人物が3人から、4人になりました。それぞれの登場人物の主張を正しく理解できたかがポイントになりました。5の記号選択問題では、(3)、(4)ともに少し長い英文の選択問題となり、解答に時間がかかったと予想します。
- 第五問（英作文）…「シンボルマーク」を題材とする問題でした。昨年同様の形式で、思考力と表現力を試す問題となりました。難しく考えすぎず、質問に対して適切に答えられたかがポイントとなりました。

【理科】

- 難易度…一部、計算問題や思考力が求められる問題がありますが、全体として易しめのとりかかりやすい問題が多いため、平均点は昨年より上昇し、60点を超えると思われます。
- 構成…昨年と同じ構成で、全体の小問数は32問、配点は第一問が36点、第二問から第五問は各16点でした。完全解答は3問、記述は3問、作図は2問でした。
- 第一問（小問集合）…光の世界（物理）、植物の分類（生物）、化学変化と電池（化学）、地震（地学）からの出題でした。昨年まであった2分野が融合された問題がなくなり、各分野とも1つの素材に対して3問ずつ出題されていました。
- 第二問（化学・化学変化）…炭酸水素ナトリウムの分解に関する問題でした。5の計算問題を除き基本的な内容に関する出題でした。5は、炭酸水素ナトリウムの割合を先に求める人が多いと思われますが、塩化ナトリウムの割合を問われていることに注意する必要がありました。
- 第三問（地学・前線と天気）…寒冷前線通過時の気象を中心とする出題で、温暖前線や閉塞前線にもふれられていました。3は、表を読み取って推察するものでしたが、難しいものではありませんでした。5の記述はあまり見られない内容で、戸惑った人が多かったかもしれません。
- 第四問（物理・力のはたらき方）…3つのばねばかりを用いた、力の合成・分解に関する出題でした。それぞれの操作を行ったときに、合力や分力がどのようにになっており、つり合いの関係にある力はどれかを考えられるかがポイントで、人によって出来・不出来の差が大きくなった可能性があります。4(2)は三平方の定理を用いる必要があり難しいものでした。
- 第五問（生物・自然のなかの生物）…水中の小さな生物を題材として、生物と細胞、生殖、食物連鎖と複数の単元から出題されました。ほとんどが知識を問う問題で、非常に解答しやすかったと思われます。5は記述ではありますが、選択肢を選ぶ形式での同内容の問題は演習したことがあると思います。そのときの模式図などをイメージすると記述しやすかったと思われます。